

夢を目指す皆さんへ贈るメッセージ



田中 優樹

日本は、世界の中でもまだまだトレーナーが活躍する地盤が整っていません。しかし、2020年の東京オリンピックに向けて、トレーナーの仕事もどんどん注目されるはずです。皆さんと一緒にこの業界を盛り上げていけたら、と思っています。共に頑張っていきましょう！

田中さんがコンディショニング指導に力を入れるのは、自身のように、早い段階で故障して夢を諦めるような経験を、これからの子供たちや若者にさせたくないから。ケガが原因で自分の持っている能力を引き出せないのは、とても残念なこと、と語ります。プロ野球選手の自主トレにも参加する田中さんですが、その中でも、若手選手のコンディショニングに特に力を注いでいます。田中さんの故郷は和歌山。将来は、地元和歌山でプレーする選手のケガをゼロに、との夢も語ります。広島に比べてトレーナーの活躍する地盤が整っていない和歌山。時間を見つけて帰省し、理解ある指導者や、協力者となるドクターをはじめ、様々な専門家とのネットワークづくりにも取り組んでいます。



に、ケガで『夢の甲子園』を断念し、のちに現在のオリックスバッファローズや、メジャーリーグのワシントンナショナルズのトレーナーを勤めた野球のトレーナーの第一人者。ケガによって競技を諦める子供を出さない、自分でケガ予防ができるアスリートを育成するというコンセプトを掲げ、悲しい思いをする野球選手を生まないための取り組みを行っています。



Mac's Trainer Room 所属
10 田中 優樹さん

鍼灸学科 2013年卒業10期生

ケガで競技を諦める
子供を出さない。

将来の夢のひとつは、故郷・和歌山でプレーする選手のケガをゼロに。時間を見つけて帰省し、ネットワーク作り。

プロ選手のトレーナー専門の場合には、基本的にそのチームに所属して、シーズン中はずっとチームに帯同する仕事の形態です。田中さんの場合は、野球専門のパフォーマンスジム・Mac's Trainer Roomに所属し、基本的にはフリーランスの立場で活動。選手個人、あるいはチーム全体のコンディショニング指導を行ったり、指導者に対する講義を行ったり、というスタイルでトレーナーの仕事をしています。Mac's Trainer Room代表の高島誠さんは、田中さんと同じよう

野球のトレーナーは圧倒的に鍼灸師が多かったことから、大学の卒業と同時にIGLの鍼灸学科に入学。アルバイトをしながら勉強を続けました。鍼灸は東洋医学ですが、解剖学や生理学などの西洋医学も、当然のように学びます。覚えることは山ほど。人間の体についてたくさん知識を学ぶことができた、というIGLの3年間、仕事と勉強を両立して頑張った学生生活は大変だったと、笑いながら当時を振り返ります。

田中さんの小学生の時の夢は『プロ野球選手』。中学・高校と野球を続けましたが、肘の故障で思うようにプレーができなくなってしまう。それでも、野球が大好きだったので、大学でも野球部に所属、選手をサポートする立場として野球に関わり続けます。大学卒業を前に、その延長線上で野球のトレーナーを目指そうと考えた際に、田中さんは**国家資格が必要**と感じます。